

Title: 「前田さんのカルテ」



前田 明日香
友達が女の子のママになりました。もうひとりの友達(車)を買いました。私は半年の間、写真を撮りに行きます。ありがとうございます。

前田さんのカルテ > 2006年07月 アーカイブ

06.07.30

上海

バスと飛行機で来たのは上海です。



普陀という地区に通ってみました。



● 最近のエントリー

- ☐ 上海 (2006.07.30)
- ☐ 麗江 2 (2006.07.23)
- ☐ 麗江 (2006.07.22)
- ☐ 泸沽湖 (2006.07.21)

● アーカイブ

- ☐ 2007年10月
- ☐ 2007年07月
- ☐ 2007年04月
- ☐ 2007年03月
- ☐ 2007年01月
- ☐ 2006年12月
- ☐ 2006年11月
- ☐ 2006年10月
- ☐ 2006年09月
- ☐ 2006年08月
- ☐ 2006年07月
- ☐ 2006年06月
- ☐ 2006年05月
- ☐ 2006年04月
- ☐ 2006年03月

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

Your Vision, Our Future

MSF 2.0



私としては毎日が疑いようもない、それは苦痛でした。

カテゴリ:

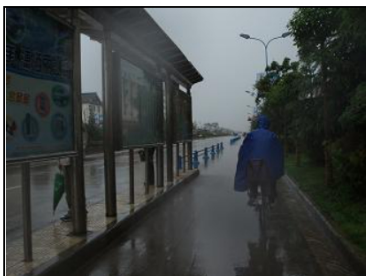
post by 前田 明日香 | 日時: 2006.07.30 | [パーマリンク](#) | [コメント\(2\)](#) | [トピックバック\(0\)](#)

[前田さんのカルテ](#) > 2006年07月 アーカイブ

06.07.23

麗江 2

ガイドブックによると麗江市内から12km、6番のバスで10元だという、白沙という村に行ってみることにしました。しかし、6番バスは走ってないそうです。ゲストハウスのおじさんが貸してくれた自転車で、おじさんが書いてくれた地図で、朝なおした傘で行こうとしたらおじさんが持ってきてくれた青いレインコートを着て、行くことになりました。



色ごと私のお出立ちとおんなじひともいました。

道確認 7, 8回
道誤り 1回
水購入 1回

村に着きました。
笑顔でニイハオを返し
笑顔で嫌らないでというひともちいたし、
ニイハオを無視しじろっと目を向けるひともちいたし、
逃げるように行くひともちいて、
もっともなことだと、
満足に自己紹介もできないし
誰、
何、
と思うだろうと思いました。



何か言っているお孫さん連れのおひとに会いましたが
子供を指差して手を口に持って行く
仕草をくり返すので
必死にお金かと思いついて涙してしまいました。
しばらく道端にすわっていたあとに
同じおひとに会い
おうちの木のいすにすわらせてくれました。
そして今日も雨でした。



借りる約束をしていた自転車に乗ろうとしたら、
おじさんが走ってきてタオルでふいてくれました。
雨は止まず
村では誰も見あたりませんでした。
昨日のおうちの門の中から
昨日のおばさんが見つけてくれました。



とりあえず何かやろうと
出かけましたが
むずかしいことだと思いました。
中国に来て、
同じゲストハウスになったひとたちが
このスタッフのひとは
friendly で
kind だ
と言っていることが多いです。
ということは
そうでない
ところもありひともちいる
ということで、
わたしはラッキーだったんだと思います。
とても助けられていることに気づきました。

カテゴリ:

post by 前田 明日香 | 日時: 2006.07.23 | [バーニング](#) | [コメント\(1\)](#) | [トピックバック\(0\)](#)

[前田さんのカルテ](#) > 2006年07月 アーカイブ

06.07.22

麗江

昨日バスで麗江に着きました。

バスでは穏やかなおじさんの隣でした。
only for joy に
アメリカから来たそうです。
中国に友達がいれば麗江は8回目だそうです。
落花生と
鼻の下に塗る
スースーする酔い止めをわけてくれて、
地図参照でいろいろ教えてくれて、
麗江ではきっと楽しめるよ、と言いました。
そして麗江は
ほんとうに多くの
観光に来たひとたちで
ローカルなひとに会ってみたい私は
いったいどこに行けばいいのかわからない次第です。
中国に入ってから
ひとが暮らしているところは
何とか安全とか何かを祝うとか
赤や金色のステッカーみたいのが何枚も貼ってある
木の門扉と壁で囲ってあって、
通るだけでは様子がわからないのです。
そして何か言ってくれても
私はそのニュアンスさえききと把握できていません....
お昼のフライドライスの滴る油のためか
昨日のバス酔いの名残りか
歩きまわるだけ
電話するだけで
何にもできない！もどかしさのためか
吐き気さえ。



でも
ココネットカフェで
紙コップに沿って
茶柱が、
ああ明日も爆りに行きます。
今日は昨夜の部屋に予約があるということで
初ドミトリー泊予定です。
中国では夏休みシーズンなこともあって
たくさん旅行する若いひとたちに会います。
私の名前にある 香 という字は
中国では シャン と読むそうで
luguhu では私はいつも
「シャンシャン！」
と呼ばれていました。
バンドみたいだし
最初は何のことかわからなくて
いちいち
“？”
となっていましたか
今はそれがなつかしいです。
今日はお湯が出るでしょうか。

カテゴリ:

post by 前田 明日香 | 日時: 2006.07.22 | [バーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

[前田さんのカルテ > 2006年07月 アーカイブ](#)

06.07.21

泸沽湖

luguhuと呼ばれる湖のそばの村に行きました。



バスで隣になった中国の女の子が、
トイレや食事や何時に着くかや、英語と漢字を交えて助けてくれました。



バスは1時間遅れて出発し、
途中、落石があったから
バスを乗り換えないといけないそうです。
お昼過ぎにバスを降りて、
すぐ隣にあった小さめのバスを
これに乗り換えるものと思った私でしたが、
それでは意味がなかったのです。
荷物を各自持ち、
落石というか土砂崩れの現場を
徒歩にてクリアし
上り坂を歩いて次のバスまでたどり着くのです。
小さな川になったとノースの通り道は

濡れた細い丸太一本で
私のカメラやパスポートや貴重品一切が入ったバッグは
見かねたる人の現地の男の人に
託されました。
次のバスを待つのに
上にせり出した岩からしずくが落ちてくる砂利の上で
しばらく休憩し
一緒に乗り合わせた人たちは
みんな同士になったような雰囲気でした。



泊まったところのロビーです。
みんながかりかり食べているのはひまわりの種です。



ごはんはみんなでついでいただきます。



明るくなってからluguhuを見たとき、
ティッシュペーパー捨てすぎだと思って
密かにショックでしたが、
白いそれはティッシュではなく、
水の中から咲いている花でした。



同じバスだった人たちと
別の村を目指して山道を歩きました。
そしてさんさん歩いた挙句
迷子になった私たち。
彼女たちのゲストハウスのオーナーのおじさんに
ボートで迎えに来てもらいました。
ずっと後ろから着いてきていたヤキ 1匹もいっしょに
ボートで帰りました。



今はじゃがいもが旬みたいで
小さな水の流れて洗っているお母さんをよく見かけ、
そしてすごくおいしいです。
おうちはお昼でも
豆電球ひとつと
食争のためにおこす火と
高い屋根にはまったガラスから射し込むくらいで
鶏や子豚が入ってこないように扉を閉めると
薄暗い大きな空間でした。



3日目の朝から
ひとりで村にいました。
撮影の帰り虹が出て
それはどどんおっきくなっていったので
しばらく石にすわって眺めていたら
自転車に乗ったゲストハウスの男の子が
続いてバイクに乗ったおじさんが
ごはんだからと探しに来てくれた。



毎晩
地元の人も観光に訪れた人も
火をかこんで
一緒に歌って輪になって踊ります。





そこではおそらく
昔からの暮らしが
あまり変わることなく
受け継がれています。
私なら
きついし
この毎日でいいのだろうか
思ってしまう気がした。
私は
そこにはなく
日本に生まれて育って
いろいろな
雑念があるからきついと思う。
彼らがそういう毎日をおくれることを
ある意味すごいと思う。
でもきっと単純なだけじゃない。
笑顔ばかりじゃなかったことから
そう思います。

カテゴリ:

post by 前田 明日香 | 日時: 2006.07.21 | [パーマリンク](#) | [コメント\(4\)](#) | [トランプバック\(0\)](#)

[前田さんのカルテ](#) > 2006年07月 アーカイブ

06.07.15

西昌



これは成都の空港ですが、
そこから
移動の経由地西昌にきました。
当初の予定よりも、目的地に近いと教えてもらい、
ここ経由にしたところですよ。
前日、
ここでのホテルの予約をお願いしたら、
たぶんどこも空いてるし要らないんじゃないかということでした。
西昌の空港に着いたのは午後6時すぎ
まだ明るいけれど、すごく閑散としています。
とりあえず誰も並んでいない taxi の看板のところに行きました。
police というワッペンの水色の制服の人が、何か言ってくれています。
わかりそうでわからないので書いてもらおうと、
我 と あなた と 車 と 飛行場 という漢字しかわかりませんでしたが、
雨になったので屋根の下に荷物を運んでくれ、
車を呼んだから待って といってくれていたのです。
車が来て、
ガイドブックの中から行きたいホテルを指すと、
それはもうやっていない と教えてくれました。
それから、そこに載っていないところに連れて行ってもらうことになりました。
車の中では、たばこを渡され火をつけてくれました。
言っていることは何もわかりません。
ホテルに着くと、レセプションのひとりのひとが
私と同じくらい少し英語を話してくれました。
運転手さんは何かあったら連絡をと言っているようで、電話番号をくれました。
そのあと、
レセプションで
目的地についてバスや時間を確認しようと尋ねると、
そこまでバスはないようだ
と言います。
それから隣の旅行社の、そこ出身だという女のひとが来てくれ、
身振り手振りを交えてバス会社に確認してくれ、
彼女の友達に英語を話せる人に電話をつないでくれ、
ようやく
予定のバスはあり、明日早くバスターミナルでチケットを買えば大丈夫
ということになりました。
そして今朝、バックパックを背負って
7時にバスターミナルに行く、
今日のチケットは売り切れたと
並んでいて私のメモを見たひとが教えてくれました。
明日のチケットを買い、
お世話になったホテルに戻りました。
レセプションの人は、
なぜ？
と聞いてくれ、
ひろったタクシーの運転手さんは、
明日自分がチケットを買うヘルプをしようと言ってくれているそうでした。
私はというと、
ゆいゆい言える言葉
感謝
こればかりです。
そして実際に来てみると
そこがどんなところか
そんなひとがいるのか
わからないと
実感しました。
ぐったりでおなかもおかしいけれど

ほんとうにありがとう。
昨日は関東も暑かったんですね。



カテゴリ:

post by 前田 明日香 | 日時: 2006.07.15 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トランプバック\(0\)](#)

前田さんのカルテ > 2006年07月 アーカイブ

06.07.14

成都



湿度が多く、暑くて空気が白いです。
地図をたよりに歩くと遠くて、中国はでかいんだっと思ひ出します。
成都では
旅行の手配もしてもらったゲストハウスに2泊しました。
外に出ると泊まっている誰かしらがいて、何かしています。
日本語も英語も中国語も聞こえてきます。
若々しい人たちがたくさん働いています。
読む人、寝る人、話す人、ひとりである人、飲む人、
いろんなスタイルの
旅をする人たちがたくさんいます。
みんな旅に出てきたんだなあと思ひます。

カテゴリ:

post by 前田 明日香 | 日時: 2006.07.14 | [パーマリンク](#) | [コメント\(3\)](#) | [トランプバック\(0\)](#)

前田さんのカルテ > 2006年07月 アーカイブ

06.07.11

ラサ





酸素濃度が低いからかなんなのか
ぼーっとして
ラサの印象は断片的です。
ほっぺたの赤いひと
聖徳太子みたいな韓の男の人
鋭いラインの山
直でくる太陽の光
安全とししゅうされた黄色い帽子をかぶった小さい子
堂々と見えるトラクター
おしりがみえる赤ちゃん
まっすぐな道路
水滴のついた桃
またかかかったバナナ
15秒を4倍して計った脈拍
水色の20元の酸素の缶
親指と小指で6をあらわす手
ピンクの水筒にはいったヤク風味のパーティー
バックパックを背負ってくれたホテルの女のスタッフのひと
歌うスタッフのひと
乾いて冷たい朝
オレンジ色の夜
白い電線
せわしないすずめ
考えることは多くあるのについていきません
でもできることをやりたいと思います。

カテゴリ:

post by 前田 明日香 | 日時: 2006.07.11 | [バーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

[前田さんのカルテ](#) > 2006年07月 アーカイブ

06.07.03

カトマンズ 3



川沿いで暮らすひとたちです。
写真を撮られることを、
彼らはどう思うだろうと思うと
わからなくなり、
何回も何回もその前を通りすぎました。
通行何回目に会った
近くの大学に通っているというひとは、
彼らを撮影しても問題ないと言いました。
英語が通じないので、代わりに赤い服の女性に声をかけてくれました。
ミネラルウォーターといくらかのルビーがほしいと言っているそうです。
どういう気持ちでそう言っただろうと思うと苦しいけれど、
撮らせてもらうおれだと思ふことにしました。

その日の夜、
ごはんを食べながら話した地元の人へ、
どうしてそういうことをするの？
と聞き、
これは自分の考えだし、気に障ったらごめん、と言って
そんなことでも、彼らのためには何にもならないと思う、
と言いました。
ほんとうです。
私は、
彼らがどう思うだろうに暮らし、どういう表情をしているのか、
どう思うだろうに考えているのか
知りたいからだと思う、
と答えました。

私は、
彼らはインドから仕事を求めてやって来たひとたちで、
ハードな生活をしていて、
何を考えてどう感じているかなんてわからないよ
と言いました。
ああもう明日は
行くのをやめたほうがいいかもしれないと思いました。
でも、考えた挙句、
次の日も行きました。
そこを過ぎてナマステを言ったとき、
昨日と同じ赤い服を着た彼女が、
前のお店から、チャーを持ってきて
私に渡してくれました。
びっくりしてぼっとした。
彼女は、上の写真よりも
もっとずっと漂亮的なのですが、
もし写真ということがなかったら、
私は彼女とかわることができなかった。
彼女のためにではなく
漂亮的と思う彼女を
自分が撮りたいから撮った
と思ったら少しすげりました。
スクーリングのとき、
やろうとしていることは
傲慢なことなんだっていついたのが今よくわかります。
せめて少しでも美しく撮れているといいなと思います。



その近所の小さな工場では、
着ていたキャミソールにプリントをプレゼントしてくれた。
彼女はモナリザで、右手にベイベー、左手に地球を持っています。
そこではみんな知り合いです。

category:
post by 前田 明日香 | 日時: 2006.07.03 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

前田さんのカルテ > 2006年07月 アーカイブ

06.07.02

カトマンドウ 2



川沿いで会ったフィールドワークをしているというふたり。
現役のソーシャルワーカーと、
ソーシャルワーカーになりたい学生さんだそうです。
3回か4回のティーとシガレットで
1日中をかけて
歩いてクライアントさんのところに行くのです。
お給料は少ない、得られるのは
満たされる思いだと言っていました。





ふたりはわたしのフィールドワークにも同行してくれます。
take your time
と
何度も言って確認してくれます。
なのにどうもわたしは自分のペースを保つのが苦手みたいです。
こんなにも
自分でさえもあます自分のことを
よく知らうとし
そしてまわりにいいてくれて
かつ
信頼できるひとが
いるって
ありがたいんだと
あらためて思いました。

カテゴリ:

post by 前田 明日香 | 日時: 2006.07.02 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)